

第20回ITSシンポジウム2022

企画セッション3「都市および地域における持続可能なモビリティサービスとは？」

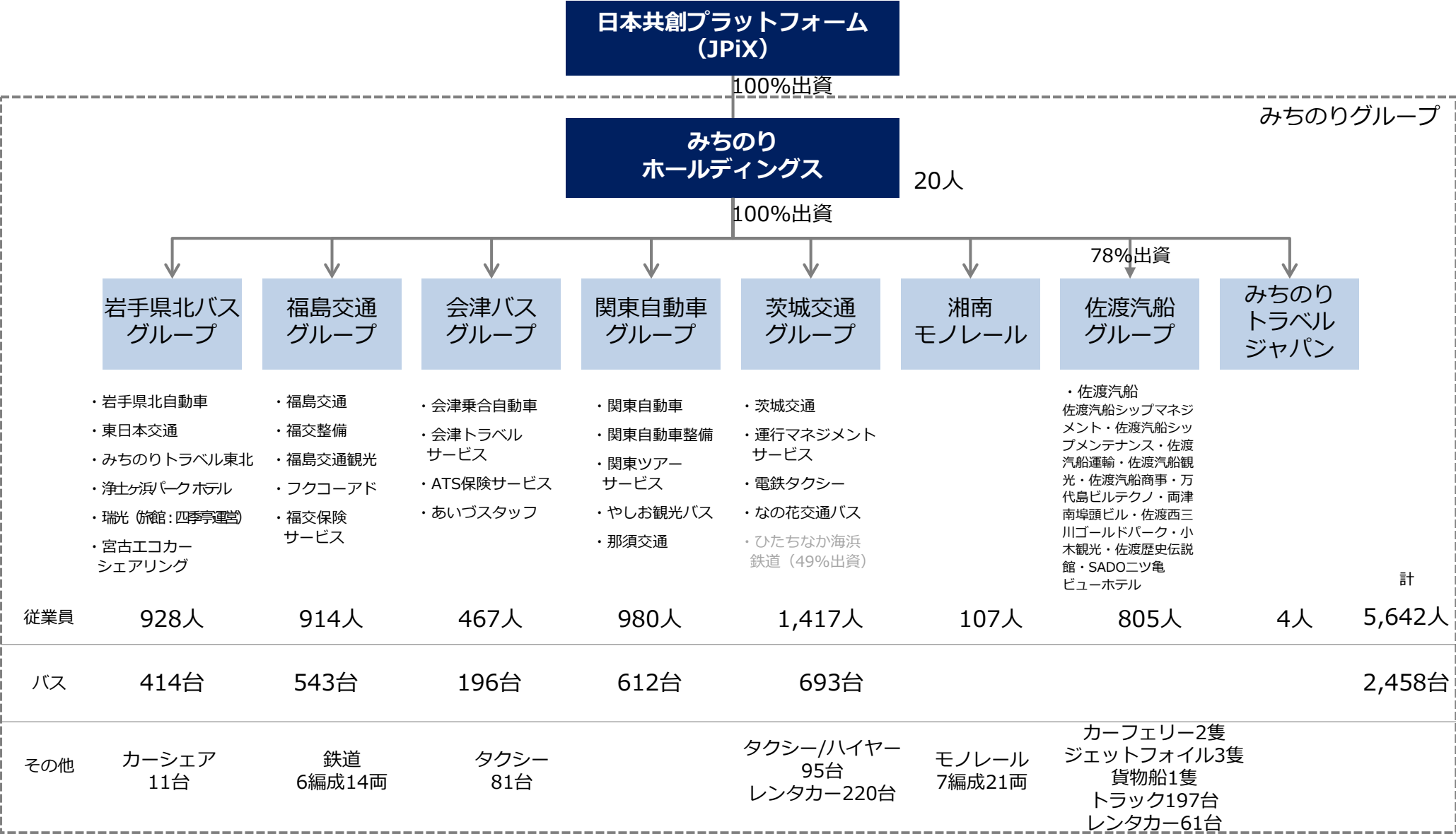
持続可能なモビリティサービスの実現における論点

2022年12月9日

株式会社みちのりホールディングス

代表取締役グループCEO 松本 順





※従業員数・車両台数は2021年8月31日時点（佐渡汽船は2022年3月31日時点）

事業内容

観光バス



路線バス



高速バス



運転士達



ロープウェイ



タクシー



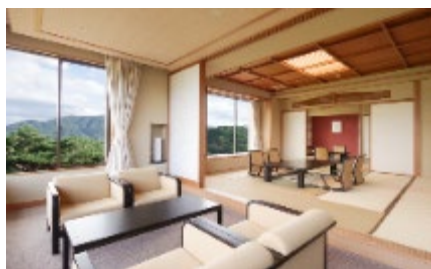
電車



モノレール



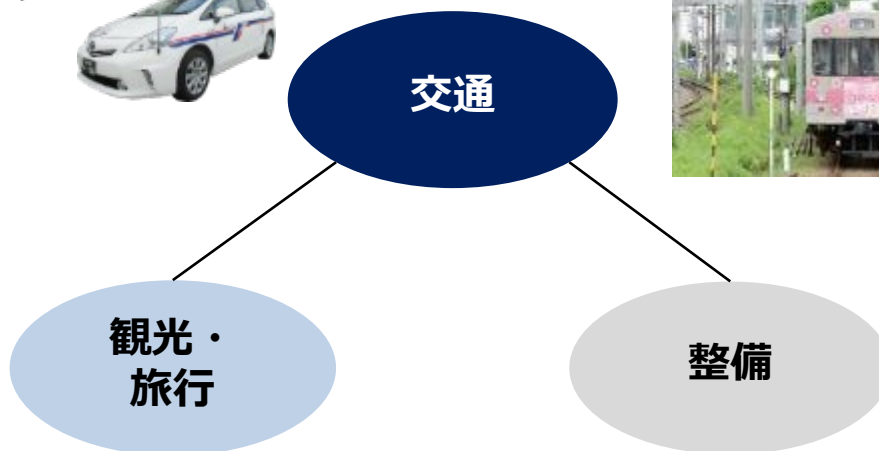
ホテル



車両整備の風景



カーフェリー／ジェットフォイル



縦串・横串のグループ経営



※人数はイメージ

地域交通の持続可能性を確保する枠組みの提案

持続可能化に向けたオンデマンド交通（DRT）の課題と展望

地域交通の持続可能性を確保する枠組みの提案

持続可能化に向けたオンデマンド交通（DRT）の課題と展望

地域交通の持続可能性の確保に向けては2つの課題

課題①

目的別に様々な移動手段が重複して存在することによる
全体生産性の低下

運転手不足の助長

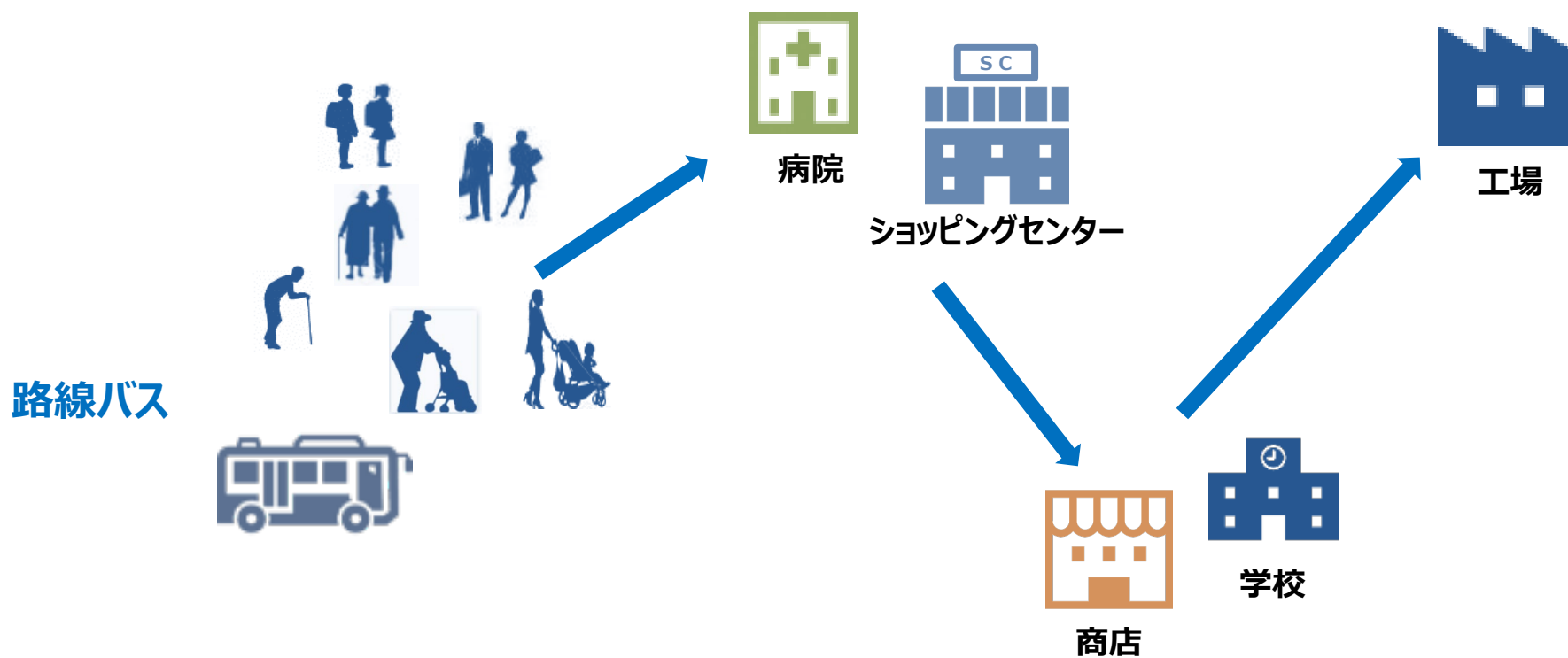
課題②

クリームスキミングによる**ミニマムサービスの崩壊**

公共交通
サービスの劣化

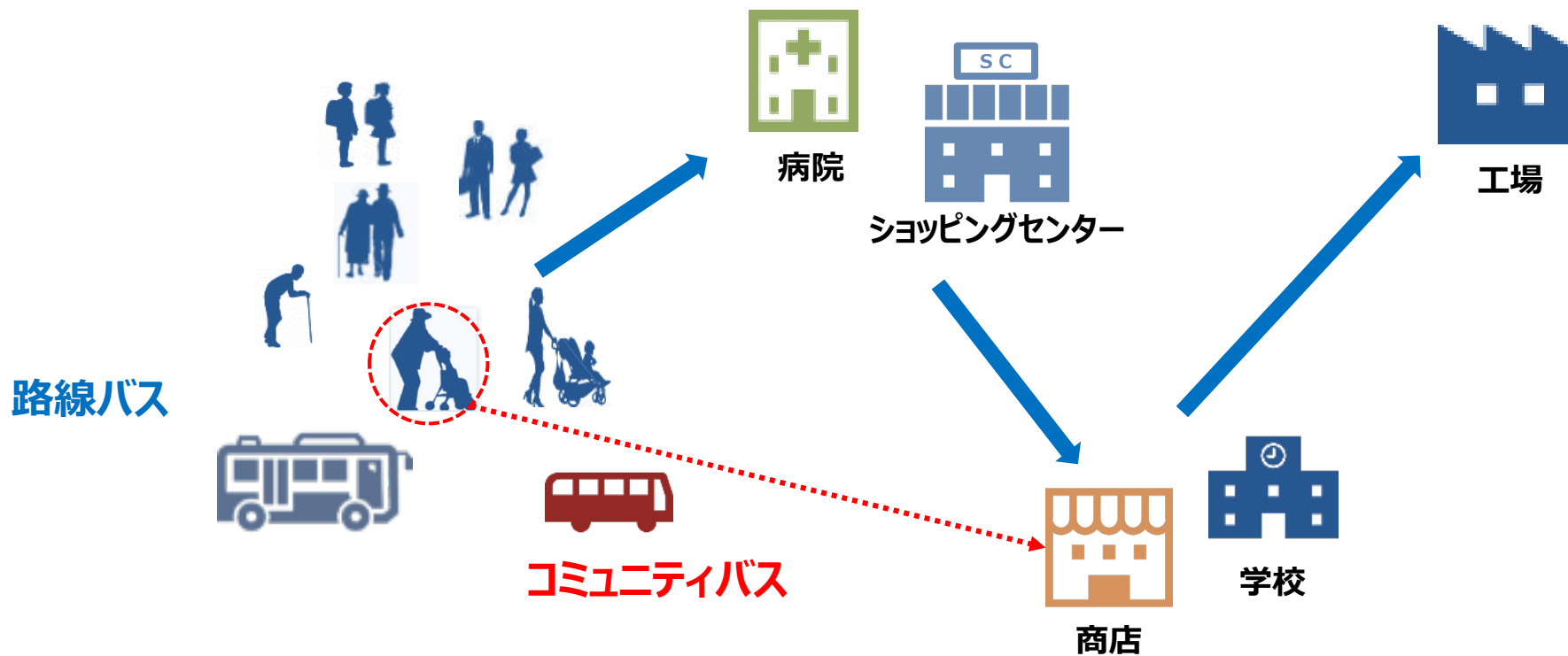
課題① 移動手段の重複による全体生産性の低下

同一地域内で目的に応じて複数の移動手段が重複して存在
全体で見ると非効率な状態に



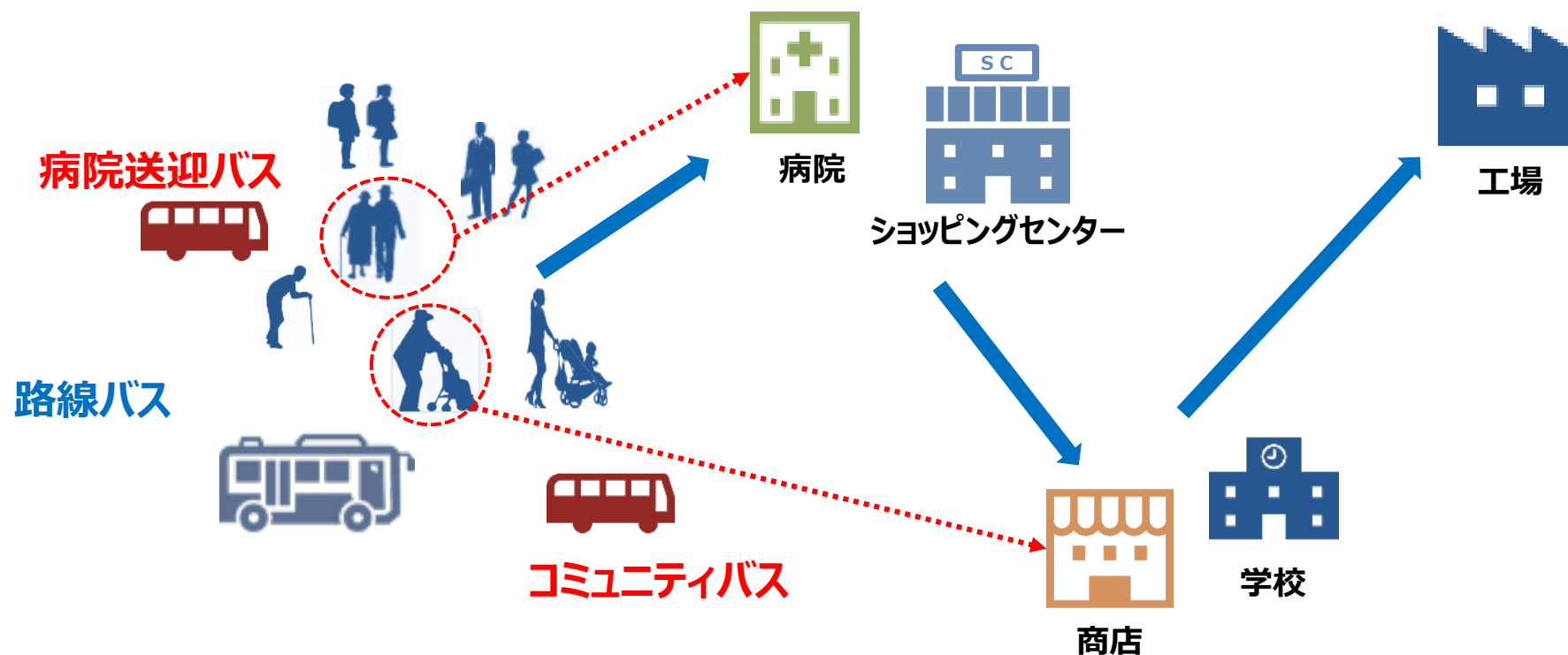
課題① 移動手段の重複による全体生産性の低下

同一地域内で目的に応じて複数の移動手段が重複して存在
全体で見ると非効率な状態に



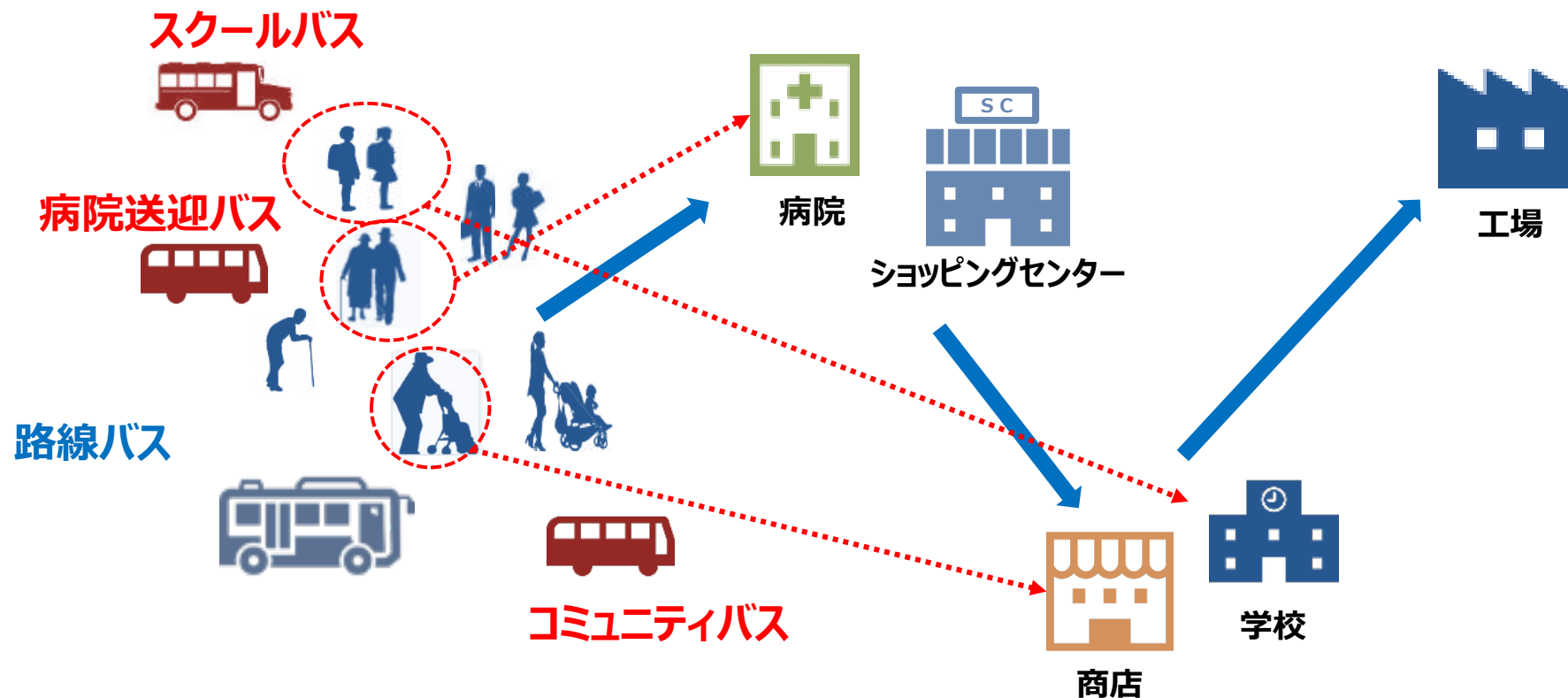
課題① 移動手段の重複による全体生産性の低下

同一地域内で目的に応じて複数の移動手段が重複して存在
全体で見ると非効率な状態に



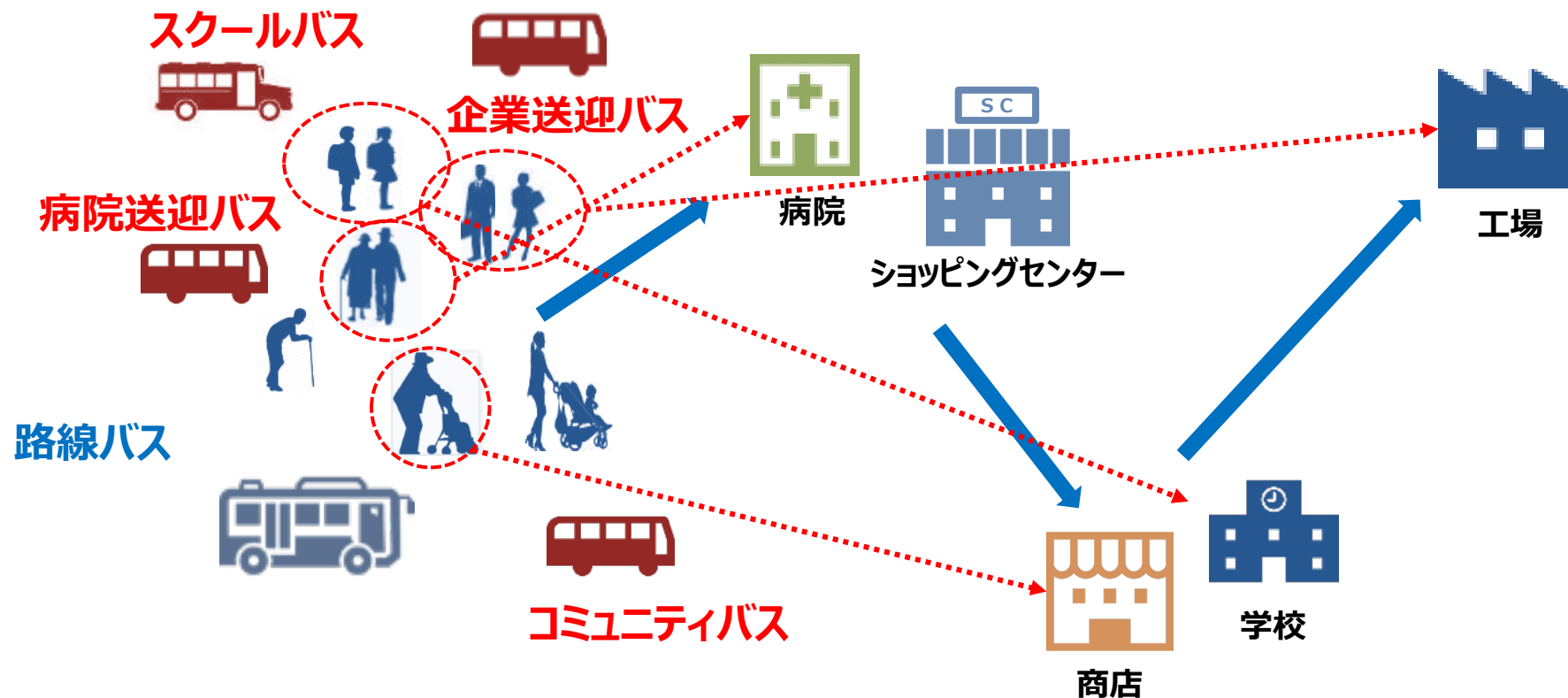
課題① 移動手段の重複による全体生産性の低下

同一地域内で目的に応じて複数の移動手段が重複して存在
全体で見ると非効率な状態に



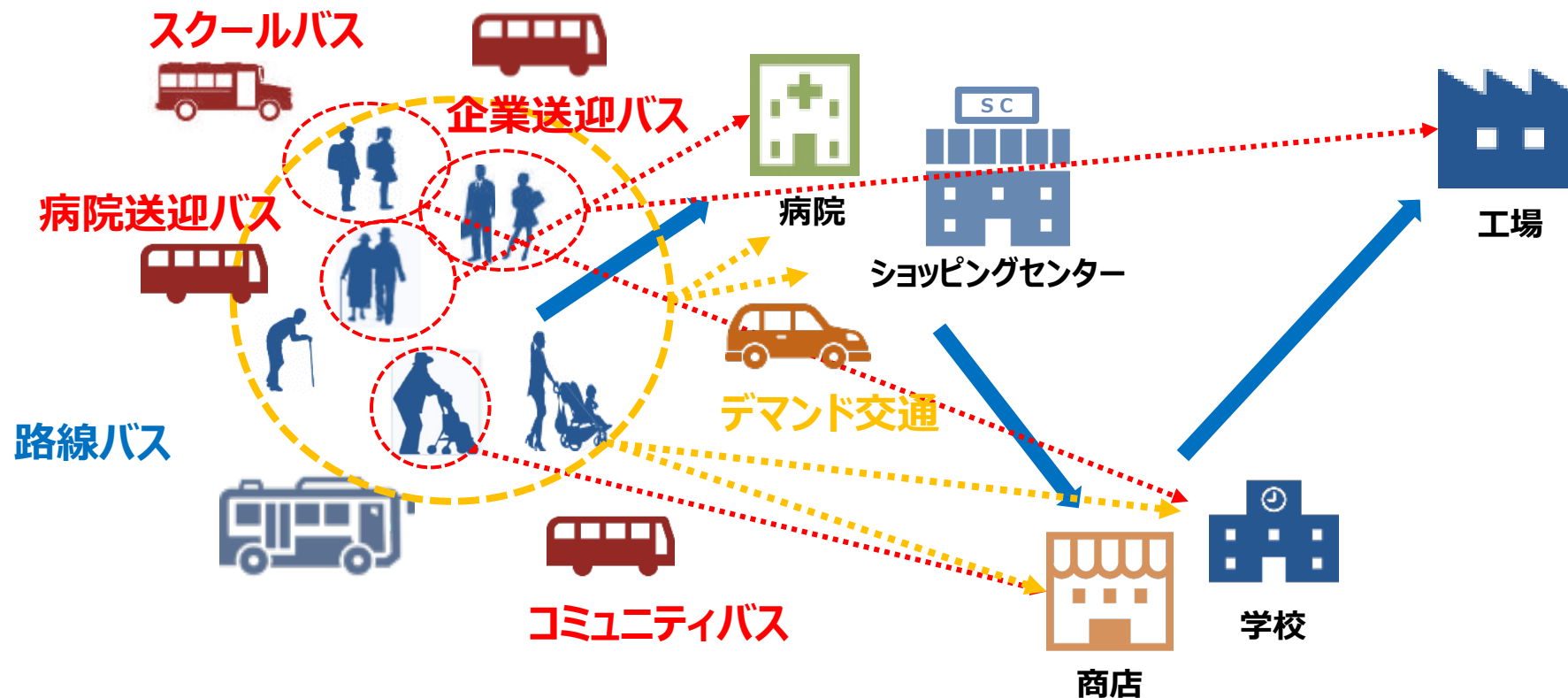
課題① 移動手段の重複による全体生産性の低下

同一地域内で目的に応じて複数の移動手段が重複して存在
全体で見ると非効率な状態に



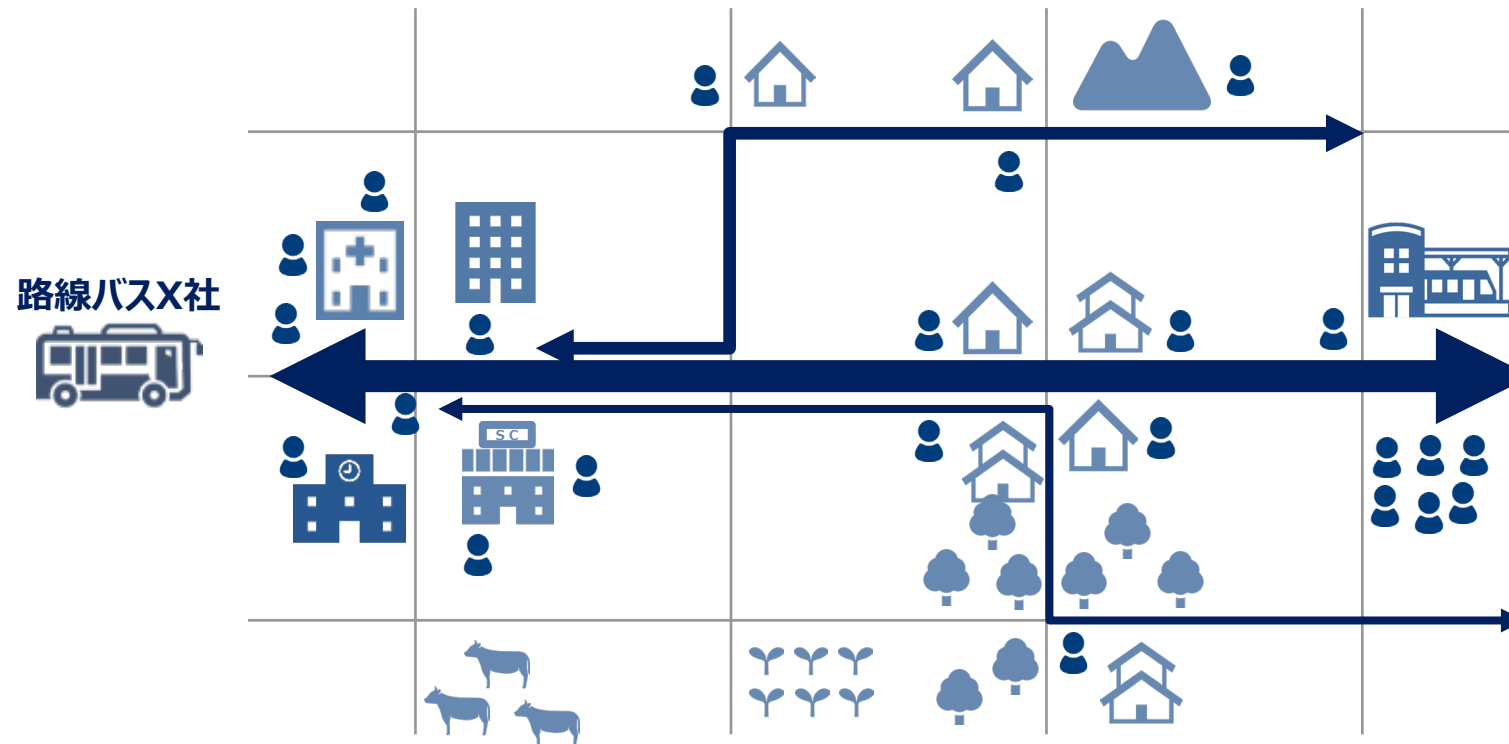
課題① 移動手段の重複による全体生産性の低下

同一地域内で目的に応じて複数の移動手段が重複して存在
全体で見ると非効率な状態に



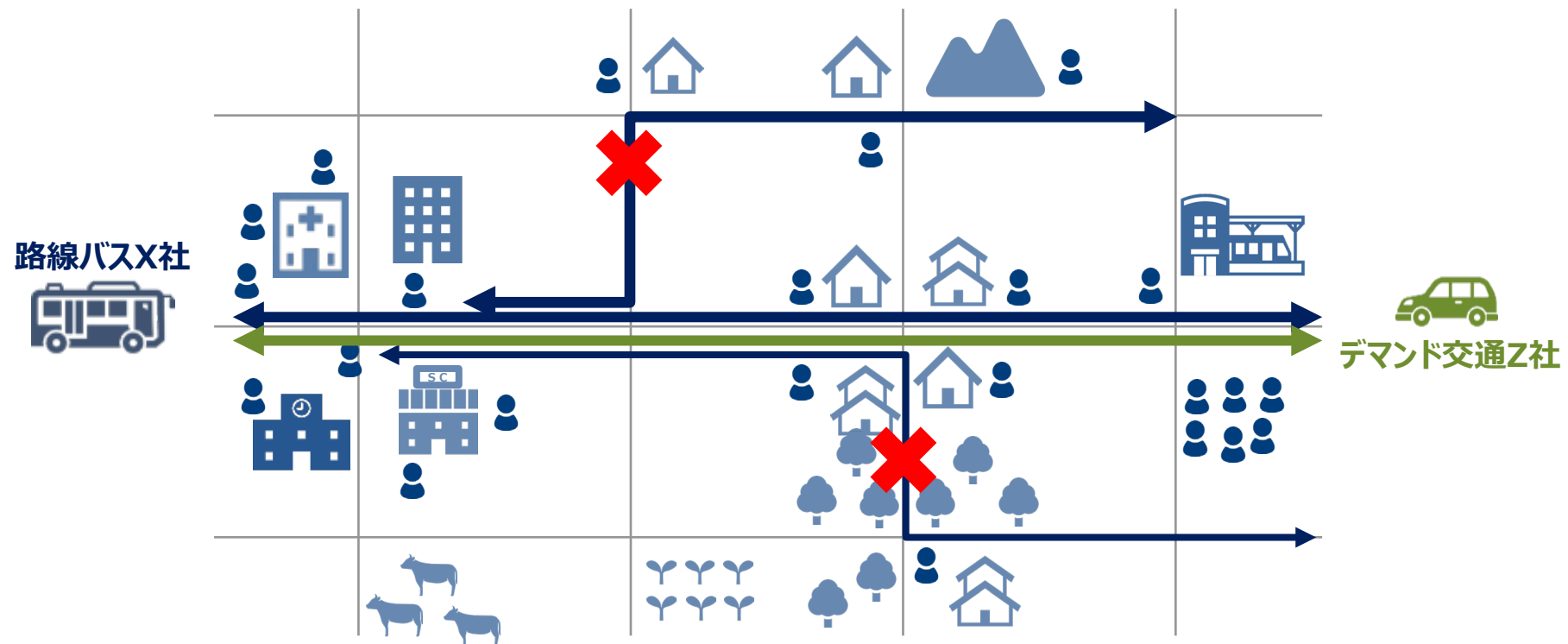
課題② クリームスキミングによるミニмумサービスの崩壊

交通インフラはネットワークで機能する
クリームスキミングはミニмумサービスを崩壊させる



課題② クリームスキミングによるミニмумサービスの崩壊

交通インフラはネットワークで機能する
クリームスキミングはミニмумサービスを崩壊させる



これらの課題を解決する枠組みとは・・・？

課題①

目的別に様々な移動手段が重複して存在することによる
全体生産性の低下

課題②

クリームスキミングによる**ミニマムサービスの崩壊**

これらの課題を解決する枠組みとは・・・？

解決策①

「混乗」の促進による生産性向上

解決策②

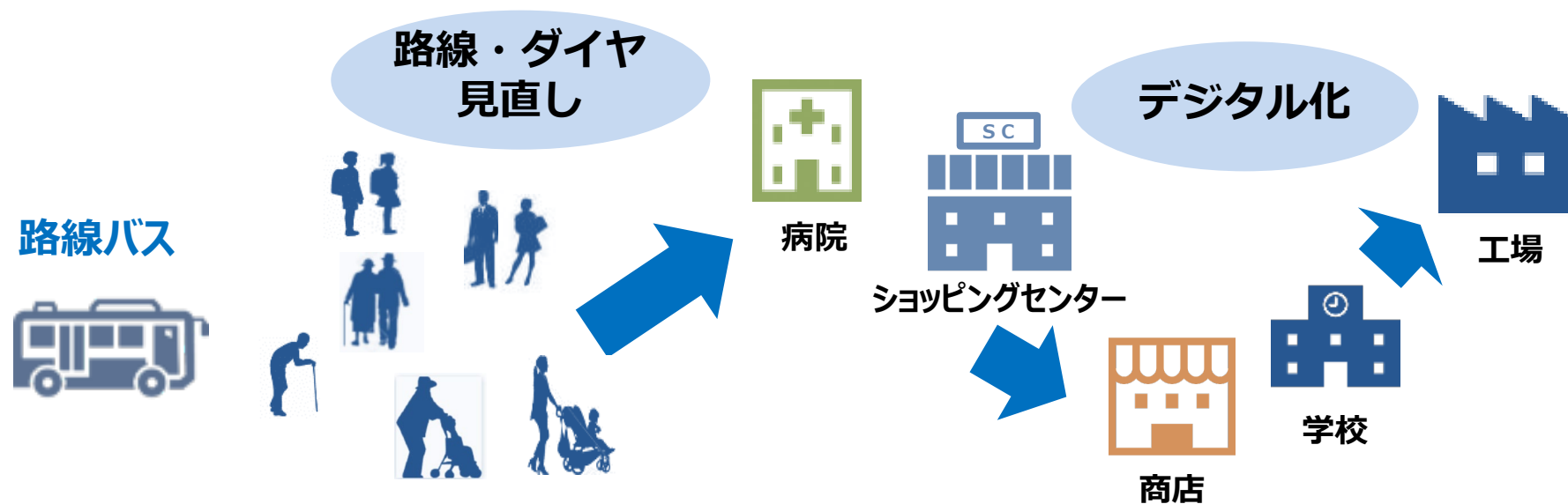
官と民の関係の再構築

解決策③

交通連合（MaaS）の構築

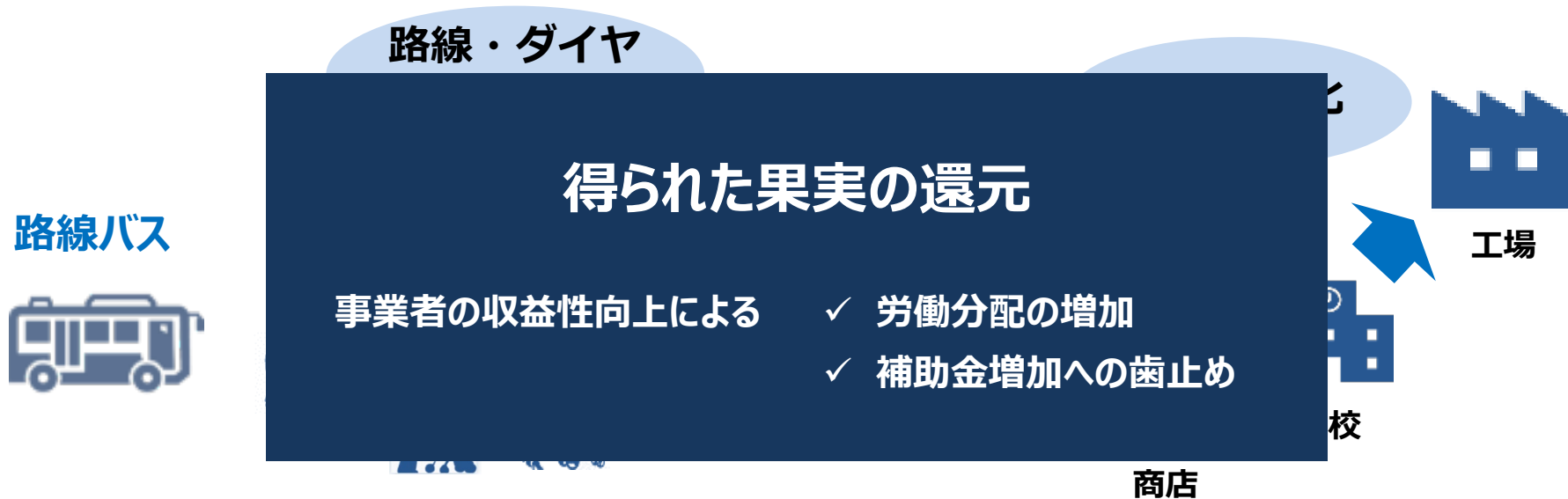
解決策① 「混乗」の促進による生産性向上

オペレーションや設備面の工夫、サービスのデジタル化によって「混乗」を促進
生産性の向上により、持続可能な地域交通の実現性が高まる

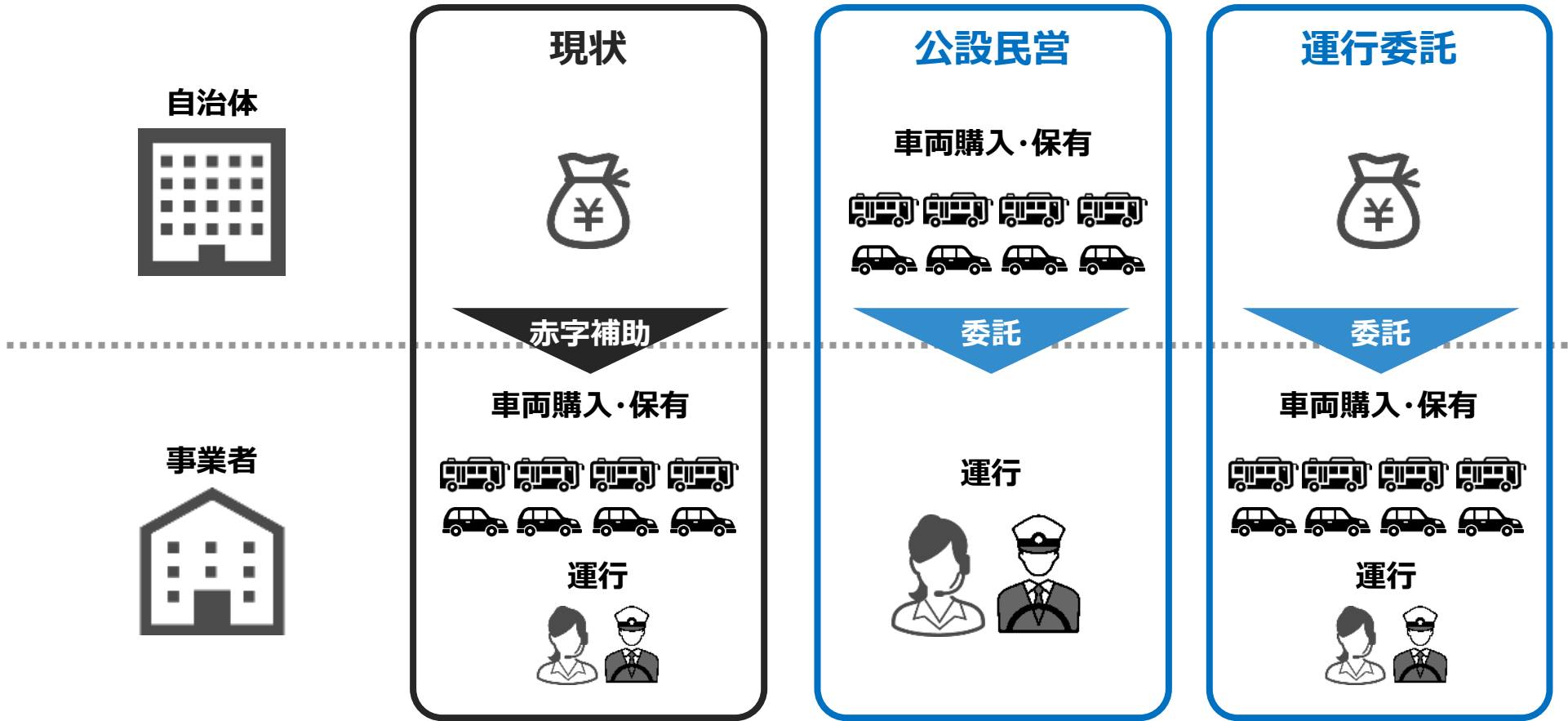


解決策① 「混乗」の促進による生産性向上

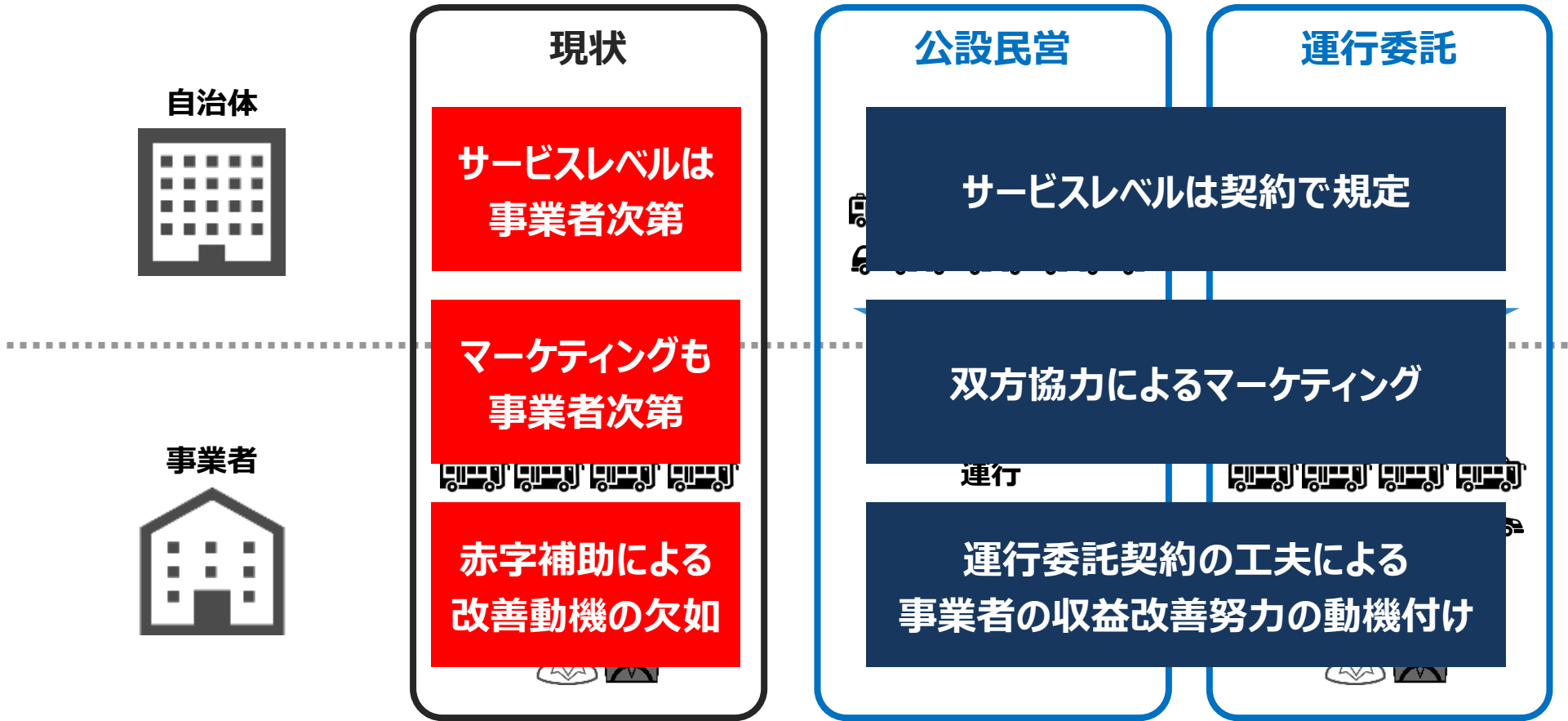
オペレーションや設備面の工夫、サービスのデジタル化によって「混乗」を促進
生産性の向上により、持続可能な地域交通の実現性が高まる



「エリア一括長期運行委託」（PPP）による新たな関係性の構築は有力な手段

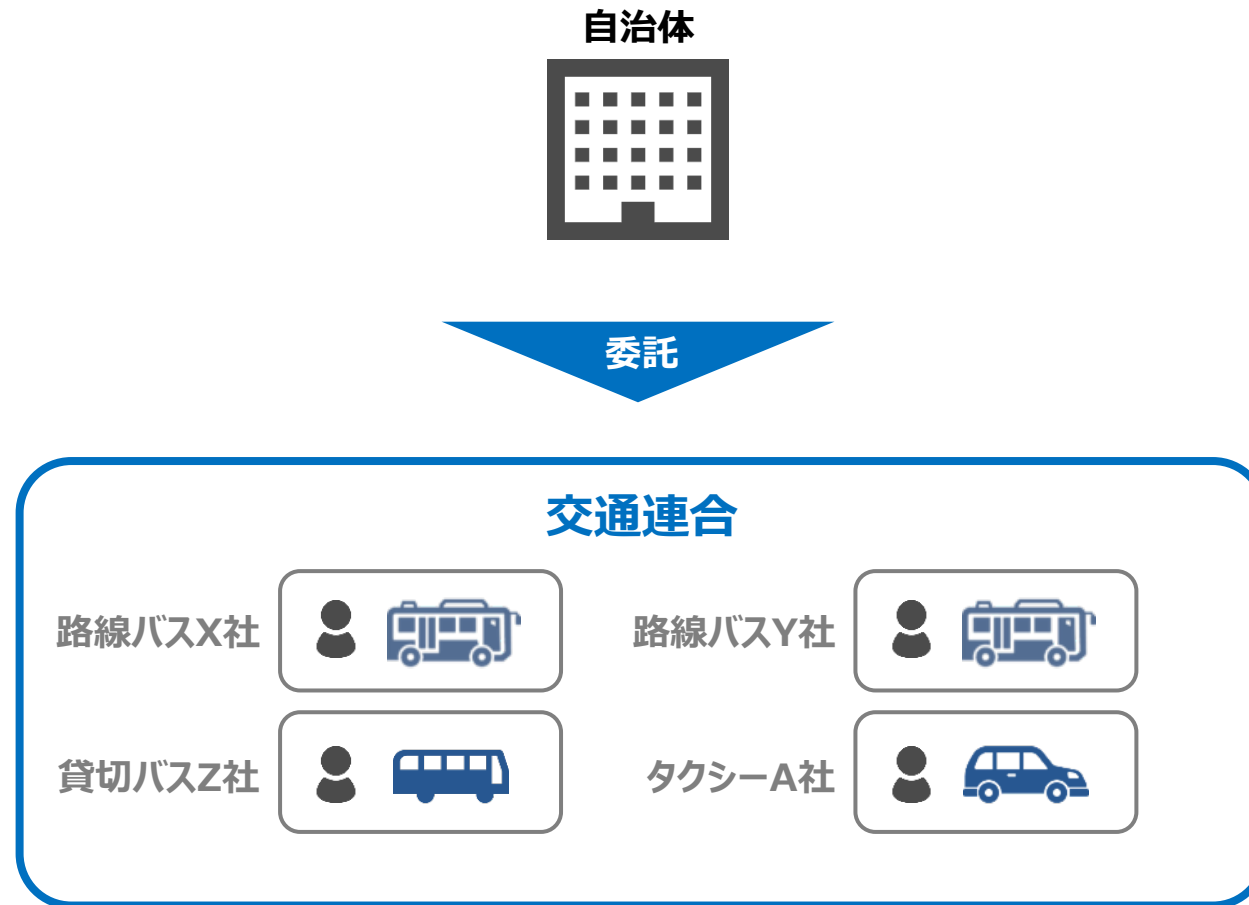


「エリア一括長期運行委託」（PPP）による新たな関係性の構築は有力な手段



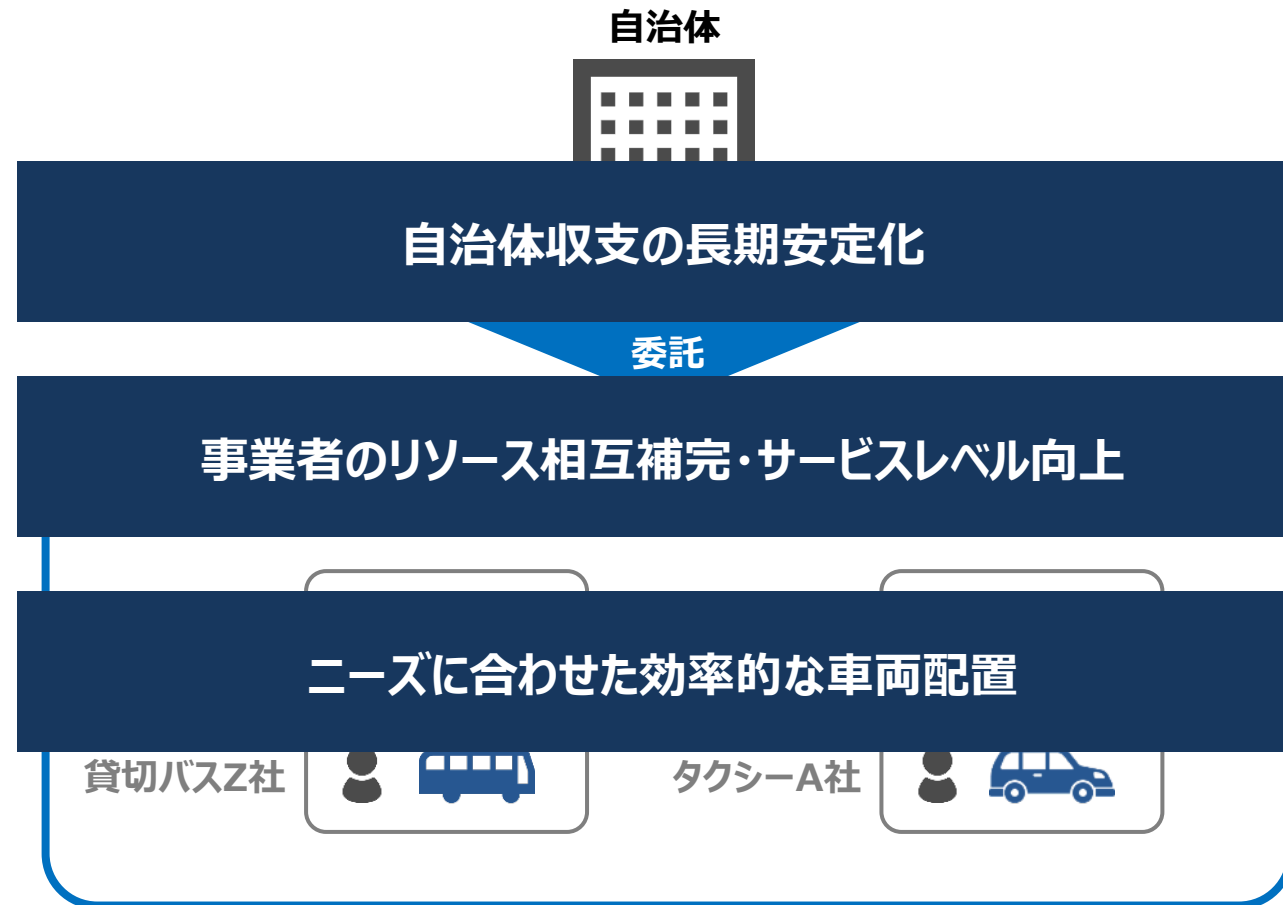
解決策③ 交通連合（MaaS）の構築

- ・PPPの実現にあたり、地域の交通事業者が交通連合を構築して受託
- ・限られたリソースを効率的に活用することで供給を維持・全体最適を追求



解決策③ 交通連合（MaaS）の構築

- ・PPPの実現にあたり、地域の交通事業者が交通連合を構築して受託
- ・限られたリソースを効率的に活用することで供給を維持・全体最適を追求



地域交通の持続可能性を確保する枠組みの提案

持続可能化に向けたオンデマンド交通（DRT）の課題と展望

リクエスト型最適経路バス（DRT）と持続可能性

バス業界のDX化・デジタル化の一類型として近年拡大中のDRT
高い柔軟性による生産性向上を見込める



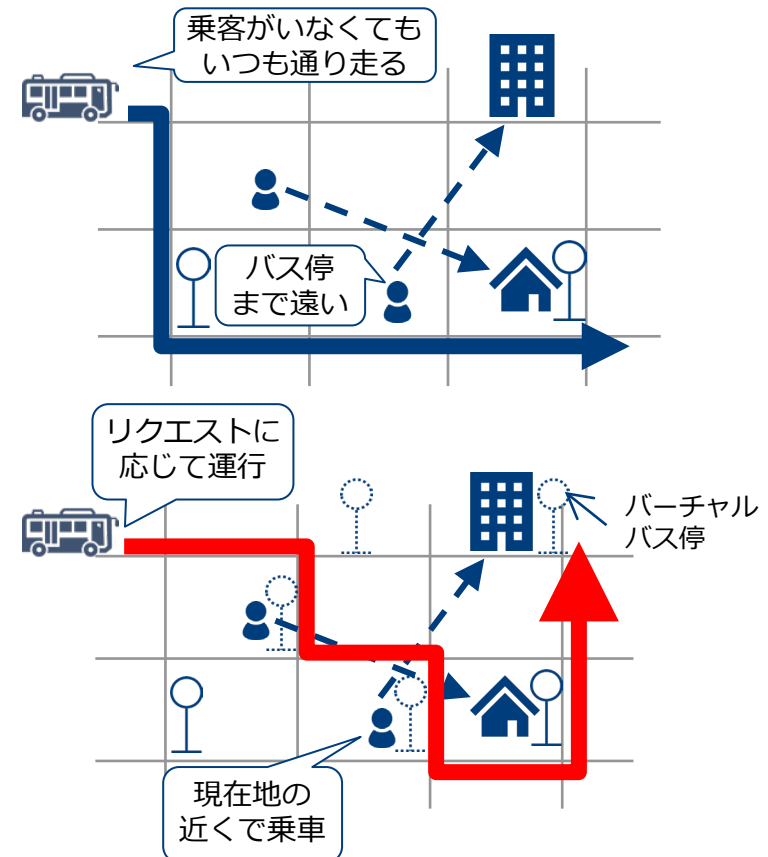
茨城県高萩市で本年10月より
本格運行中のDRT
「MyRideのるる」

※ 一般的には「AIオンデマンド交通」と呼称されていますが、住民・利用者には認知されていないため、みちのりグループでは、サービス内容が伝わりやすいように「リクエスト型最適経路バス」という名称を使用しています。

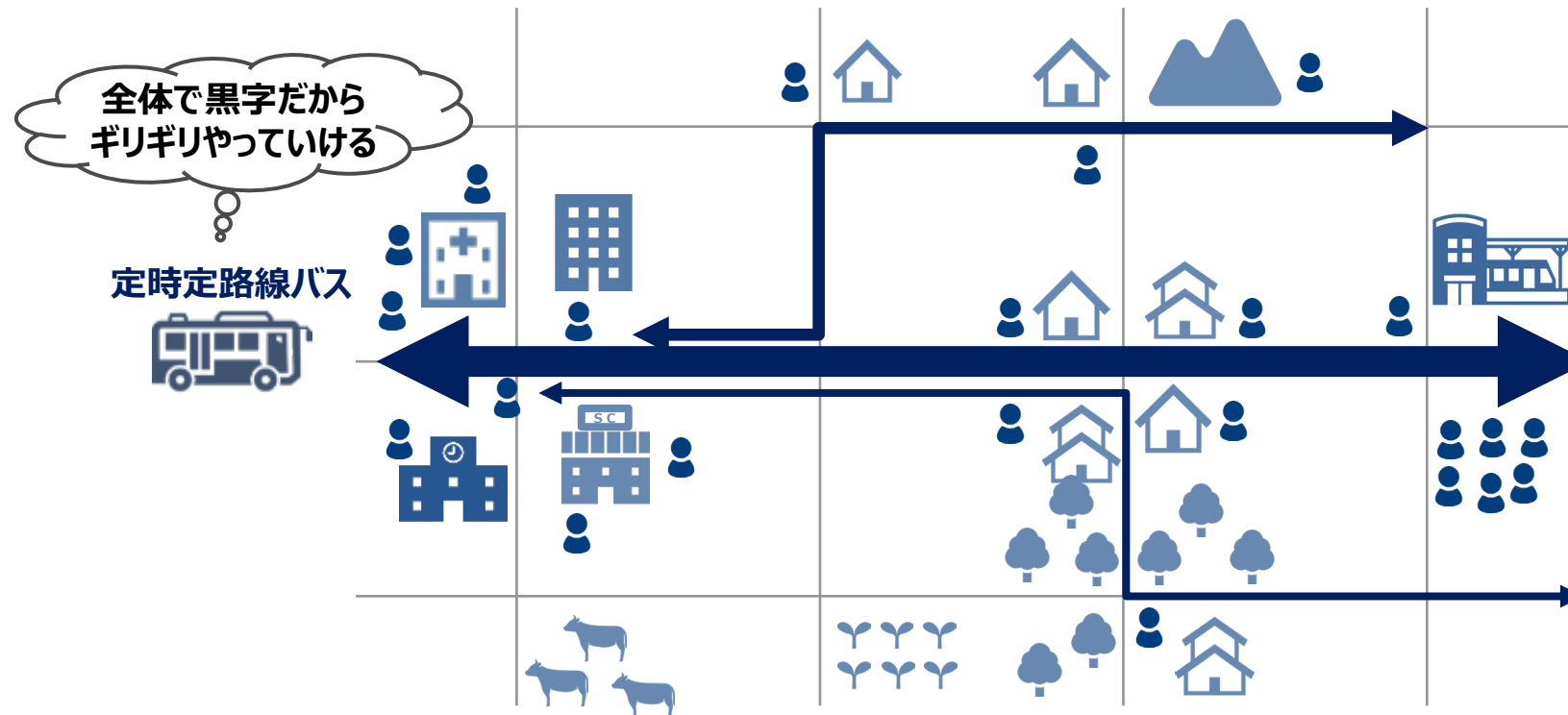
路線バス
(定時定路線)

リクエスト型
最適経路バス

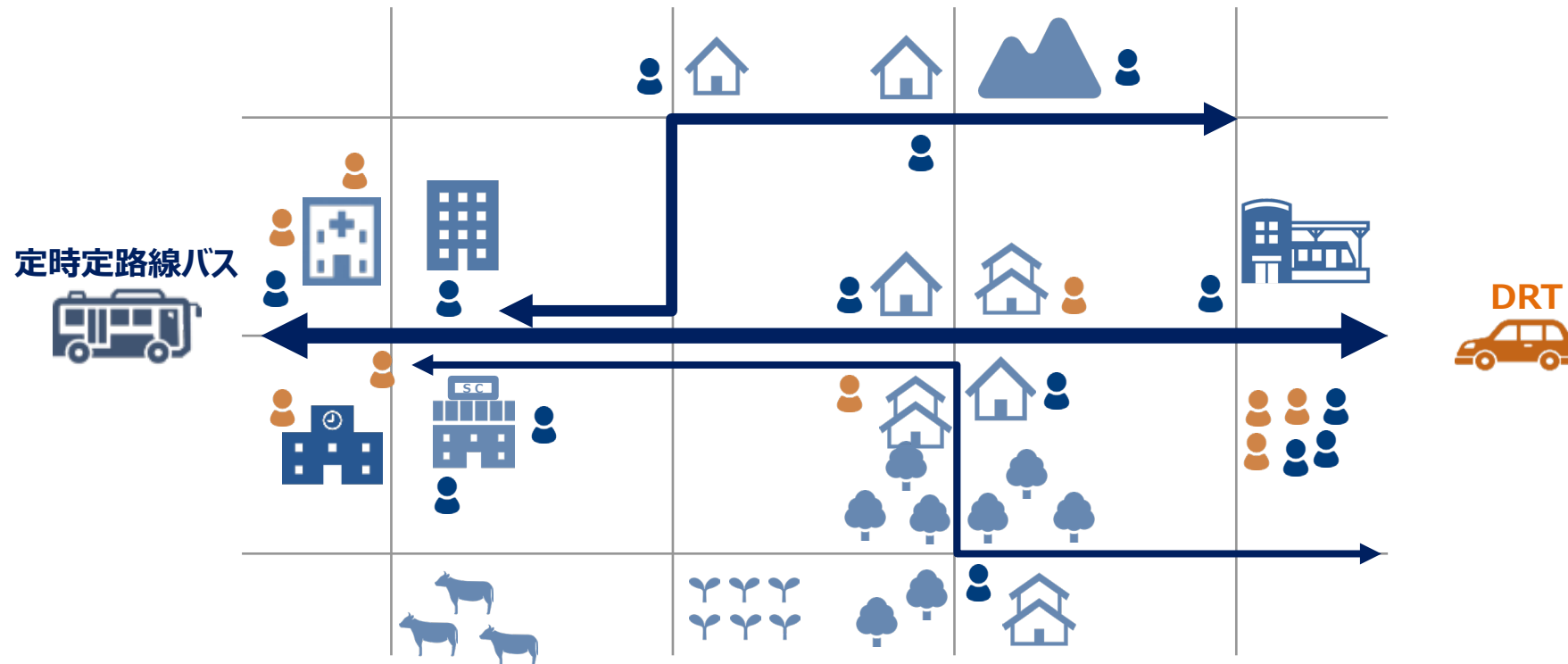
〈イメージ〉



定時定路線バスのみが存在



DRTが重複して参入

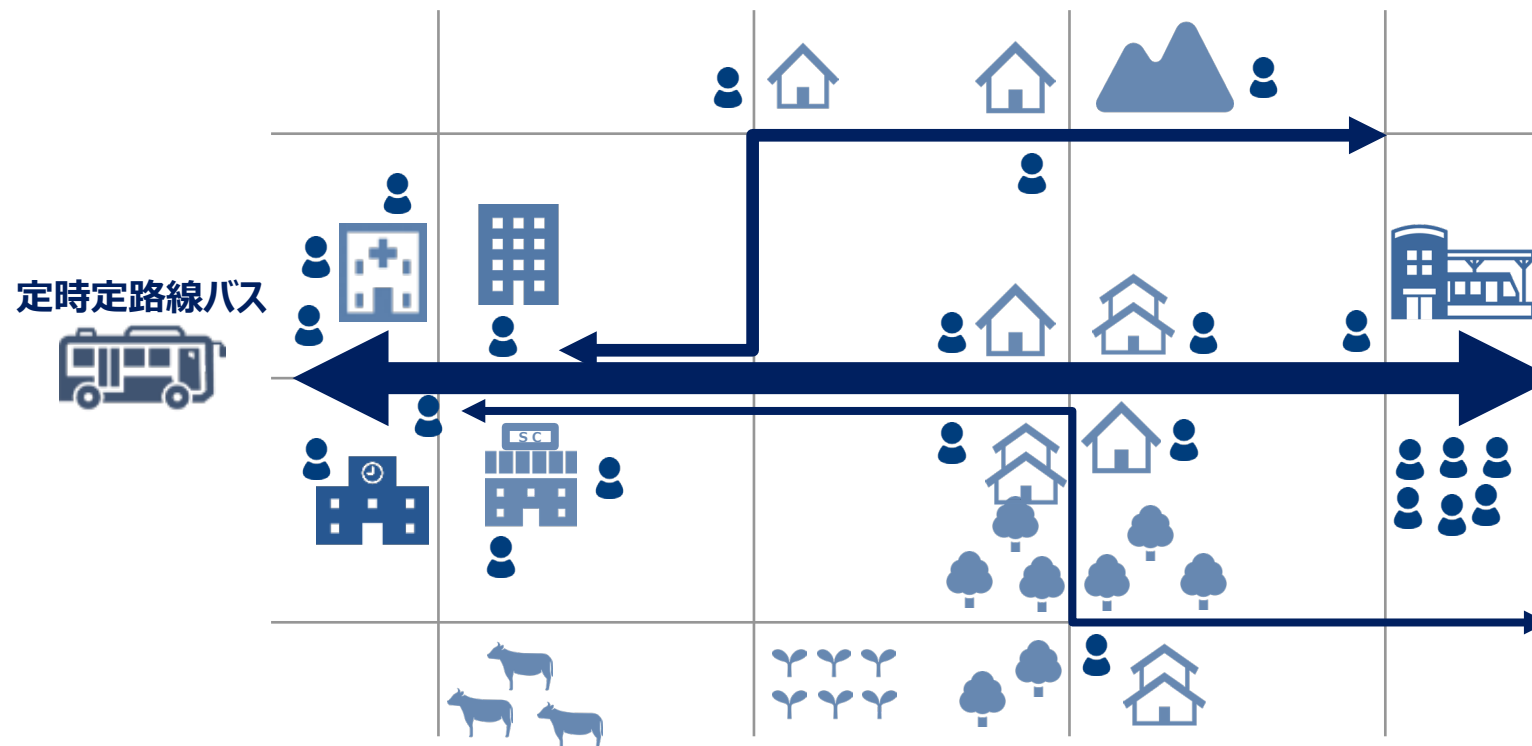


定時定路線バスが減便および一部廃止

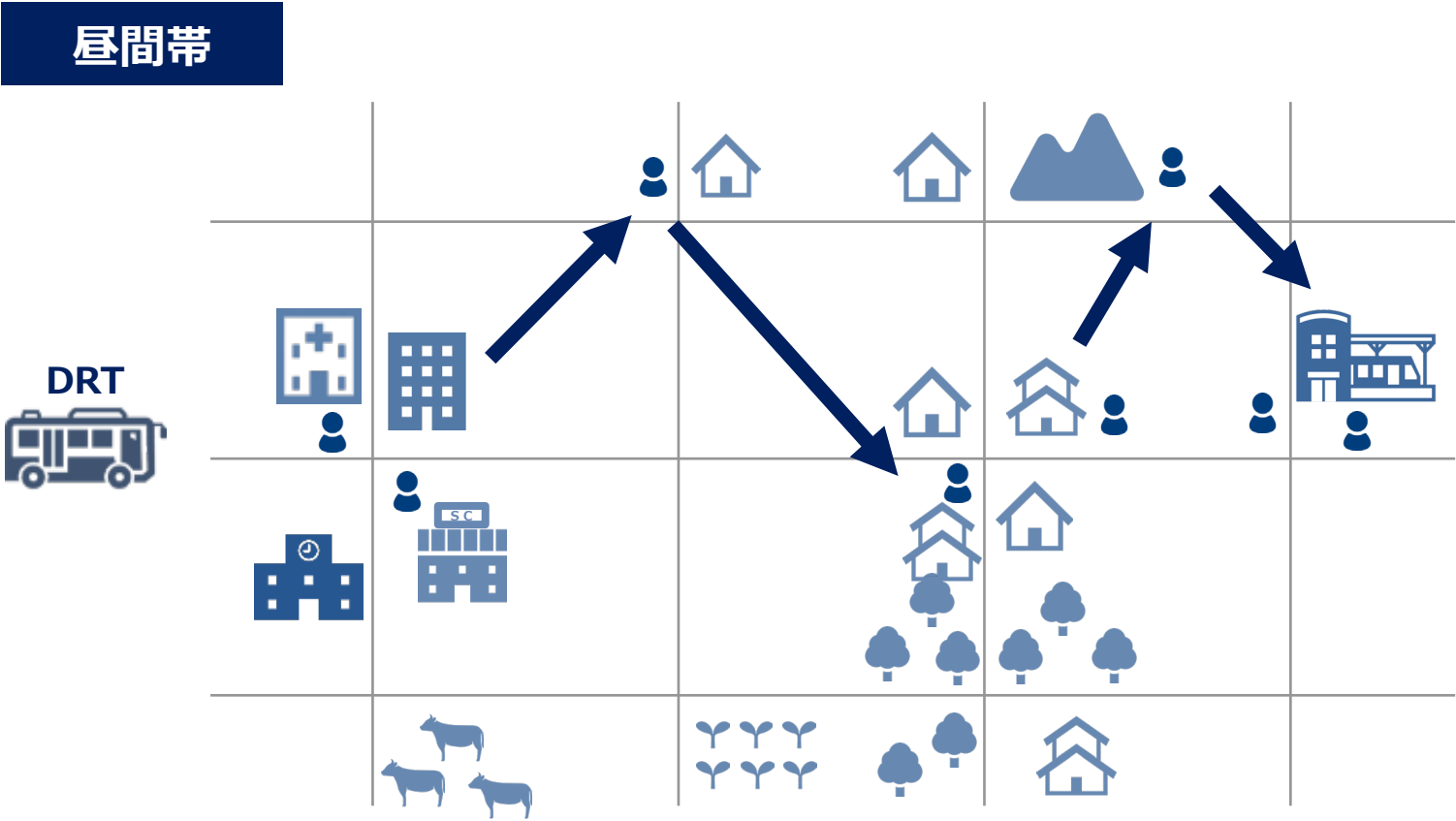


朝夕は定時定路線で運行

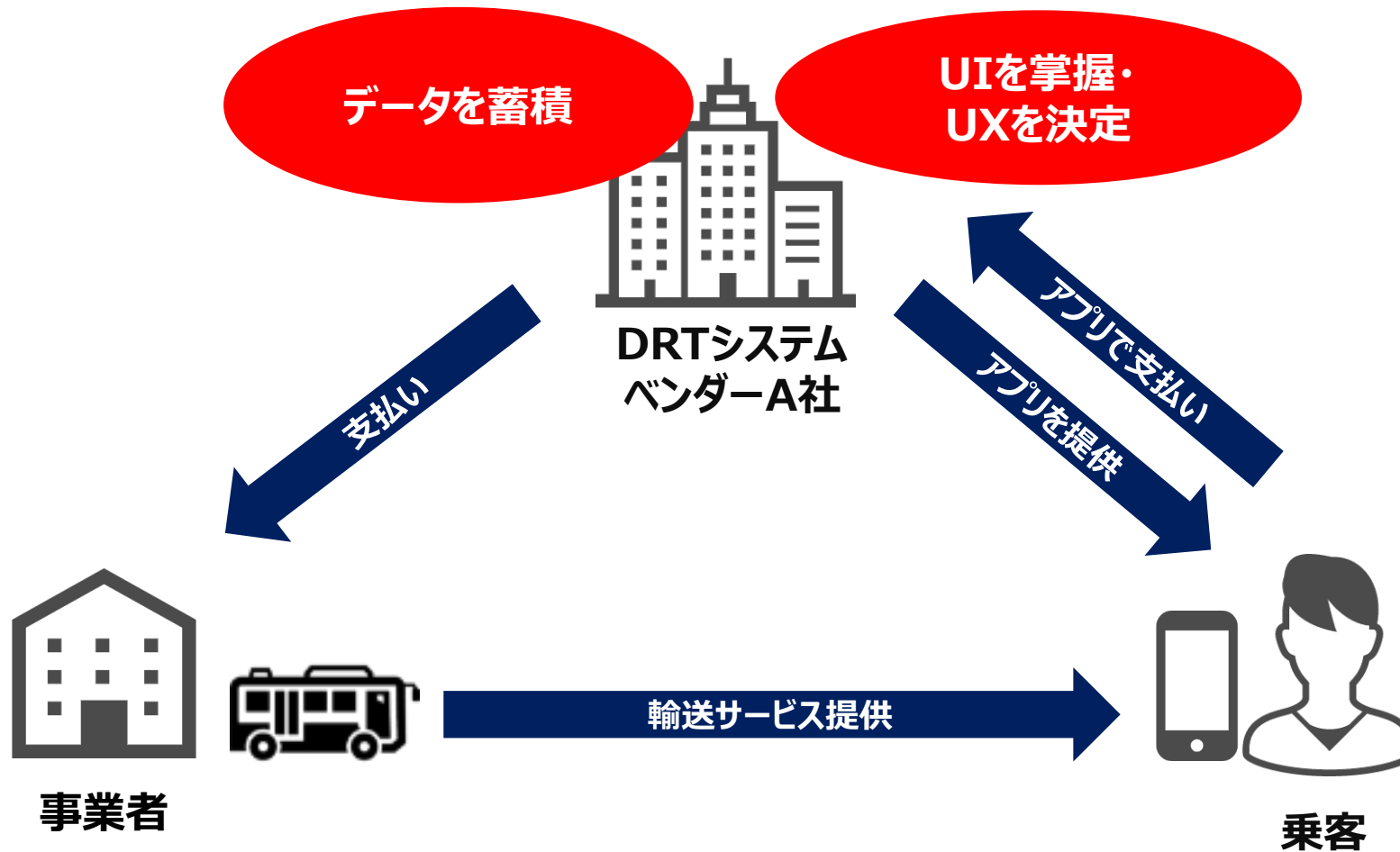
朝夕帯



昼間はDRTで運行

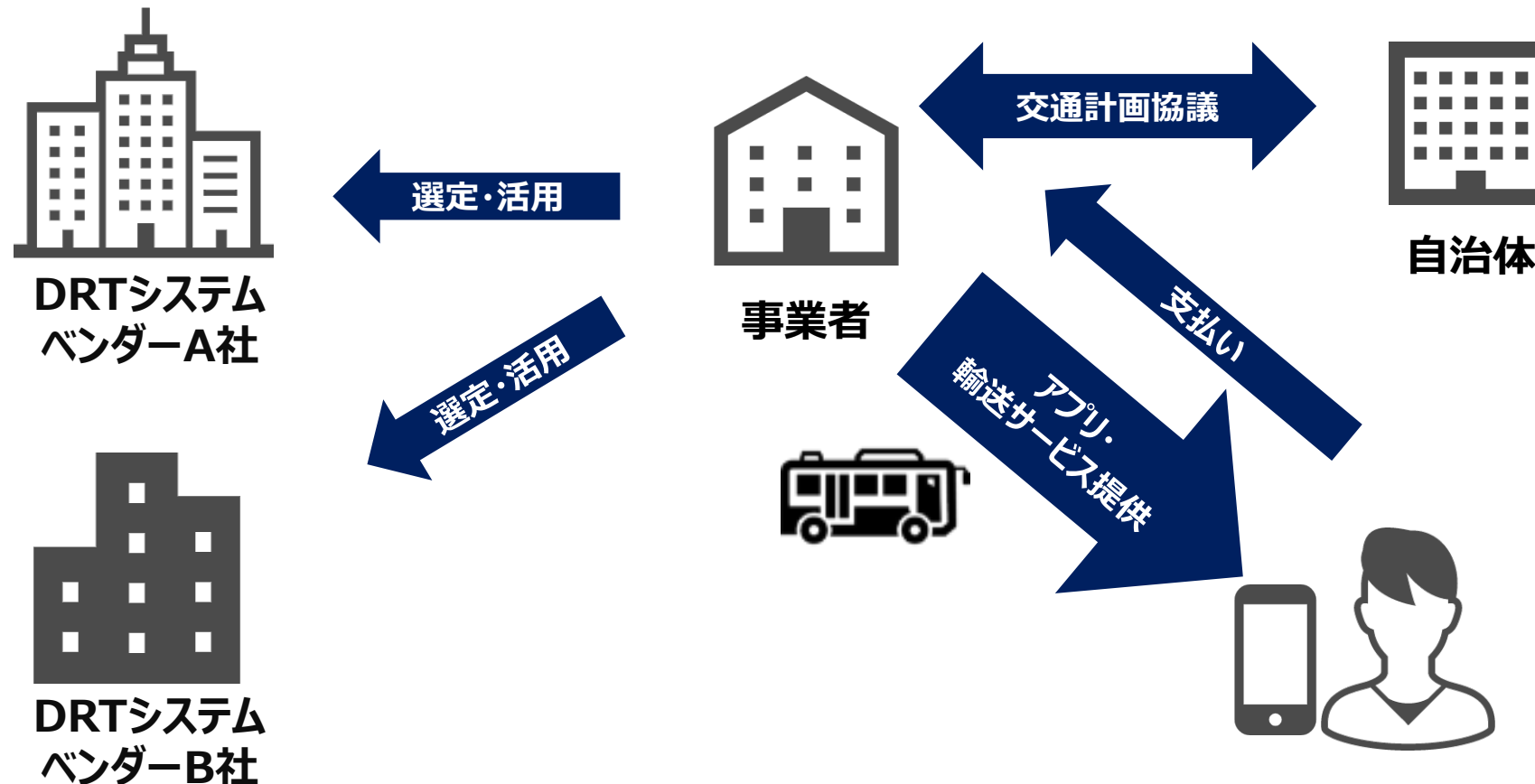


全国各地でDRT導入の試みが積極的に行われている



まとめ：自治体と事業者求められる「能動性」と「全体視点」

地域全体の視点に立って、正しいパートナーを能動的に選び取る必要



まとめ：自治体と事業者求められる「能動性」と「全体視点」

地域全体の視点に立って、正しいパートナーを能動的に選び取る必要

